

繪入

武家重寶記

口舟可

四

ケ 5

99

4





名家重寶記卷之四

目錄

一 刀脇指のしゆり糸字奈

實貫 小刀櫃 栗取 切羽 目釘 柄 兼 本冊口 縁頭

二 六刀名所をあらうり糸圖

三 鎌乃らまわ糸の糸

四 去刀姑々糸の石突の圖

五 鐵炮の始付り名所を知り糸

六

大矢

棒大矢

炮櫛大矢

鐵田大矢

石大矢

明石大矢

大石大矢

四海大矢

七

寄道具の事

鐵棒

扶腹

切角棒

捻止

鐵棒

圖

八

六具の事

九

腰物鑲長刀法名と稱方

武家重寶記卷之四

一

刀脇指の事

刀の事一 黃帝青山の釘と云て始に鑄る

刀の事一 洞冥記に云く刀の事一 長刀短刀

と云の和名能太知今云脇指の事ありり

は七角の釘と云る今云脇指と小刀三名と

と云る今云小刀の釘指は小刀あり九寸五分

の鑲通ありて上右の人平生記即ち小刀は名

づけり身と云ふありりと云ふ釘ありともじり

名作の刀鑲治ありて今云をとも名あり

物人同子情りて家々實三と四り中にも三
条小瓶治宗道き稲并羽村白旗子現小て振
撃とらふよとて住況もありと外奉て計じ

一 實の身は 鋒の 鋒の 錠とを

一 作の 冠為 指作 鋳作 旨蒲作 高衝 双釘

一 片釘 切刃 小釘 横釘 三頭 及

一 菴棟 平棟 丸釘 三釘 中釘 片刃 双刃 鋳釘

一 沙流 直刃 乱刃 逆乱 丁子乱 丁子刃 鋒刃

一 流 皆焼 記

一 上作 北府あり中作 村膚あり 帽子 湯走

一 鋼本 等刃 といふ

一 歯 心と柄心とを 中心ともあり 釘 鑪子 あり

一 鎌目 鎌鉋 鎌横 横釘 横下 直遠 切直遠 橋垣

一 萬葉 逆鬼 直板 扇形 片山 片廻 扇形釘

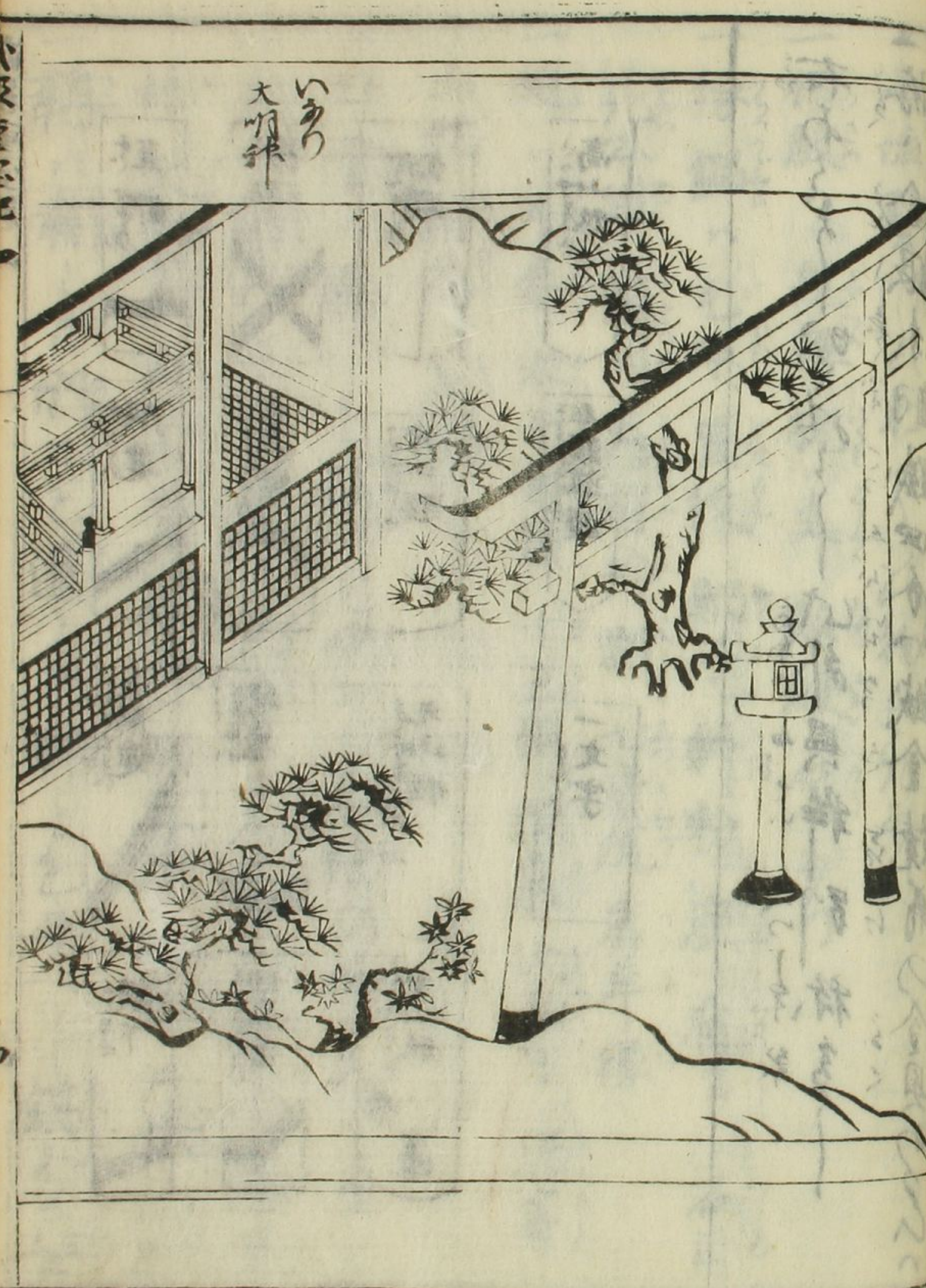
一 高山 一文字 片頭 平部 鑿頭 高湯 角肉

一 小肉 月釘 元 等こめ かく 文く

一 鑪の 鏡 鋳 鋳 錯 鋳 とを

一 生鐵 網鐵 精鐵 鑄 鋳 鋳

一 鑪の圖



いり
大明神



いり 大明神

直釘

隅違

大隅違

横下

檜江

鷹羽釘

逆巻

切直違

鋤頭

片山形

丸山形

平山形 或 切違

高山形

卒頭濠頭

一文字

右あしよりいふは 以外異辨別称多し

一枚 金銀朱白鐵四合一鐵金燒着の金具あり

柄釵の親粒 兎走 鮎鮎 写あり

縁鑷の毛眼 置紋 鯛子 斜粉 磨 疳 石目

丸石目 鑷目 為摺込 刺 七齋洗 唐草縁

頭 牛蒡 水牛角額 十五頭 桶底 大面方 泥寄

山形 摺為 等あり

月貫の鞆と色鉄とを分り朱繪の物あり

糸の請文をのり白草の黒草 蕙草 為焦地 濃焦

地 大小菱片 女巻 襦巻 胡麻皮 双摺片 拵

鞆の鞆と色削とを遣とを鞆とを分り 拵あり

本刀鞘（本）、黒塗（黒）、漆（漆）、子（子）、り（り）、その（その）、か（か）、摺（摺）、刺（刺）、鞘（鞘）

虎（虎）、巻（巻）、刺（刺）、鞘（鞘）、刺（刺）、封（封）、斑（斑）、縹（縹）、細（細）、海（海）、嵐（嵐）、虎（虎）、生（生）、鮫（鮫）

刺（刺）、鞘（鞘）、岩（岩）、石（石）、賊（賊）、抜（抜）、刺（刺）、植（植）、刺（刺）、浮（浮）、木（木）、刺（刺）、竹（竹）、あり（あり）

一本（一本）、圍（圍）、に（に）、球（球）、と（と）、す（す）、一（一）、鞘（鞘）、の（の）、木（木）、に（に）、あり（あり）

小（小）、尻（尻）、の（の）、玳（玳）、と（と）、色（色）、鏢（鏢）、瑞（瑞）、鏤（鏤）、鍔（鍔）、と（と）、も（も）、す（す）、一（一）

栗（栗）、形（形）、の（の）、鶴（鶴）、序（序）、と（と）、去（去）、一（一）、と（と）、中（中）、反（反）、角（角）、赤（赤）、色（色）、を（を）、あり（あり）

一（一）、鷲（鷲）、月（月）、鞆（鞆）、鞆（鞆）、と（と）、色（色）、鞆（鞆）、と（と）、色（色）、す（す）、一（一）

一（一）、下（下）、緒（緒）、の（の）、降（降）、緒（緒）、と（と）、も（も）、緋（緋）、と（と）、も（も）、人（人）、一（一）、五（五）、色（色）、組（組）、交（交）、花（花）、打（打）

目（目）、に（に）、葉（葉）、打（打）、啄（啄）、木（木）、等（等）、如（如）、木（木）、あり（あり）

鐔（鐔）、の（の）、鐔（鐔）、と（と）、色（色）、一（一）、五（五）、色（色）、透（透）、後（後）、接（接）、眼（眼）、置（置）、紋（紋）、五（五）

小（小）、刀（刀）、攪（攪）、攪（攪）、攪（攪）、攪（攪）、あ（あ）、つ（つ）、ひ（ひ）、の（の）、刺（刺）、刺（刺）、の（の）、七（七）、當（當）、世（世）、を（を）、れ（れ）、と（と）、り（り）、の（の）

一（一）、切（切）、羽（羽）、の（の）、構（構）、葉（葉）、と（と）、色（色）、す（す）、一（一）、大（大）、刺（刺）、小（小）、刺（刺）、着（着）、切（切）、廻（廻）、輪（輪）、蓋（蓋）

一（一）、刺（刺）、麻（麻）、壳（壳）、繩（繩）、目（目）、留（留）、あり（あり）、二（二）、枚（枚）、重（重）、二（二）、枚（枚）、重（重）、も（も）、あり（あり）

一（一）、目（目）、釘（釘）、え（え）、の（の）、竹（竹）、と（と）、り（り）、の（の）、木（木）、と（と）、り（り）、の（の）、森（森）、木（木）、と（と）、り（り）、の（の）、星（星）、司（司）、釘（釘）、も（も）、五（五）

二（二）、太（太）、刀（刀）、の（の）、名（名）、所（所）、と（と）、あ（あ）、ら（ら）、う（う）、糸（糸）、三（三）、圖（圖）

一（一）、太（太）、刀（刀）、の（の）、沖（沖）、劔（劔）、の（の）、舊（舊）、記（記）、子（子）、鉄（鉄）、刀（刀）、帯（帯）、刀（刀）、横（横）、刀（刀）、と（と）、す（す）、り（り）

和（和）、名（和名）、と（和名）、古（古）、波（波）、岐（岐）、七（七）、種（種）、神（神）、名（名）、帳（帳）、の（の）、疏（疏）、と（と）、い（い）、く（く）、寶（寶）、劔（劔）、と（と）

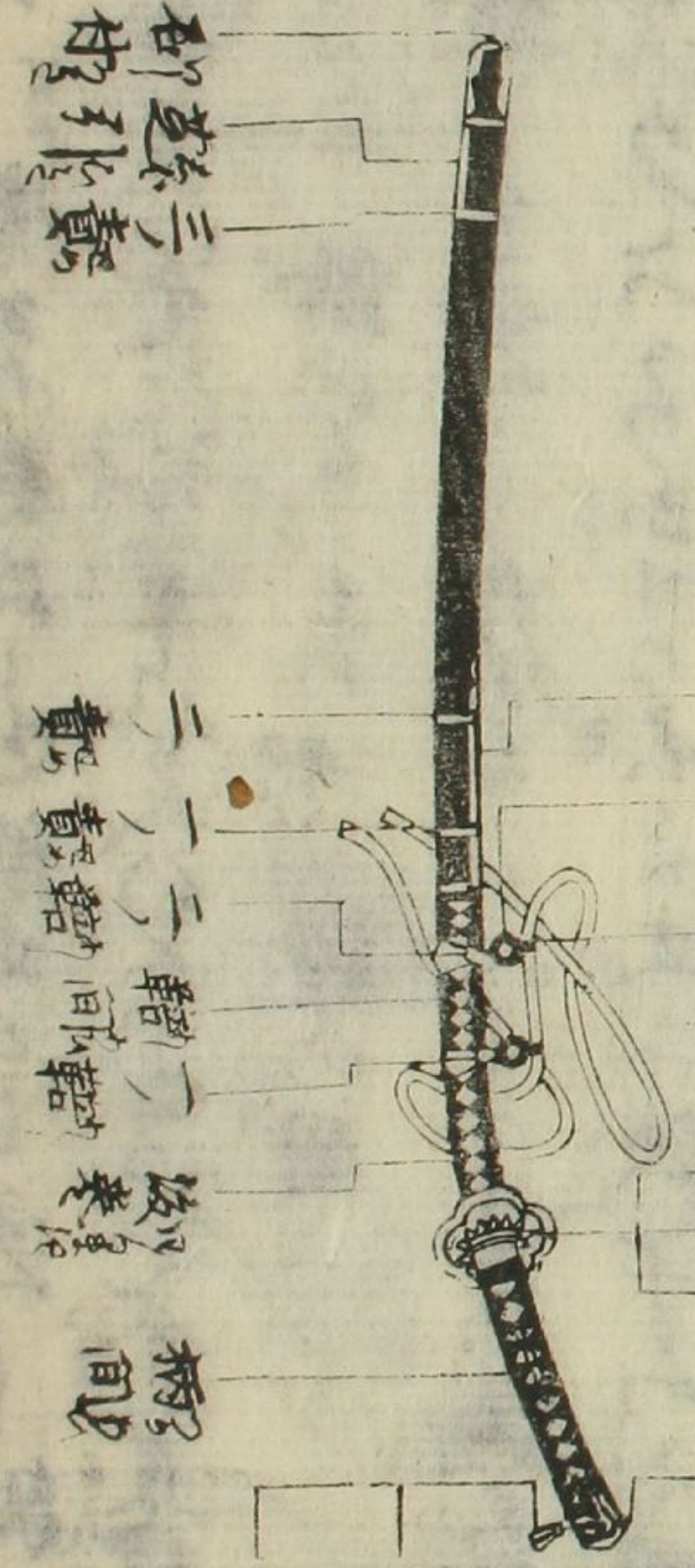
太（太）、知（知）、と（太知）、称（称）、を（を）、ひ（ひ）、く（ひく）、糸（糸）、蓋（蓋）、烏（烏）、尊（尊）、出（出）、雲（雲）、の（の）、列（列）、と（と）、か（と）、り（り）、は（は）

太（太）、と（太）、知（知）、劔（劔）、と（太知劔）、の（の）、以（以）、て（て）、大（大）、蛇（蛇）、の（の）、尾（尾）、と（と）、り（り）、の（の）、小（小）、尾（尾）、の（の）、あ（あ）、ら（ら）、は（は）

わ（わ）、り（わ）、と（わ）、れ（わ）、と（わ）、天（天）、の（の）、村（村）、雲（雲）、の（の）、劔（劔）、と（わ）、り（わ）、の（の）、あ（あ）、ら（ら）、は（は）、三（三）、種（三）、は（三）、神（三）、名（三）、と（三）

のそり一ありつらふく紐とい太蛇とあり紐とりの
 蛇形と御紐の割切はして一乃切目二乃切目
 とふ乃又陰陽の両儀を具に一乃れを破母と云
 刀頭火子属して物と摧破せられ陽のこらあり春
 と死遁系とて水子属して陰を表ふとらて物を
 和らめらるらありて西ありと分てまめくらに
 はくふ刀のレに後ゆんと云こ姐鏡とい陣太刀
 とあり死をりらふを帯やうありわつとらある書に
 轉て大つと野太刀とい上右野野名はこ
 といを案ぞらに野のりゆの名はわら次釋體
 もあり天祥ありの部野の美ありと又天子に
 てハ寶紐といお軍にとい御帯刀とい又鞘あり
 と一振とい鞘はこりらと一腰とい

太刀之圖



三 御紐

二 一 二 鞘
一 二 鞘
一 二 鞘

鞘

二 一 二 鞘
一 二 鞘
一 二 鞘

鞘 鞘

一 皺ひだり文ぶんの引ひき膚くわのり蓑かさ皮かわを波なみ文ぶんともすへく皺ひだりの志し日ひ
 波なみのちをすしはに塗ぬり筆ふでのう人のあはるゆへに今いまの直ただ裁ざいを云い

三 鎧よろいのちまり糸いと二に鑑かんの圖ず

一 鎧よろいの鑑かんを色いろすべしり後のちこしにさく漢かんの詩し葛くわ亮りやうと
 子こ人にんらうめつらり出でせり去ささ丈ぶち二に鉄てつをのりく頭かぶ守まもり
 あり書かき子ここが約やくはく鑑かんのいあへの鋒かきとさまて去さくつ
 王わう出でしう物ものとみ鏡かがみあり去されど色いろ上うへ代しろいささ書かきり
 みくそ深ふか平へいの軍い以い後のち建けん武ぶ至し續つの同おな乃の合あ戦せん各かく
 わりしにも鑑かんのち不見みえの意い仁に文ぶん明めいの比ひすわ
 そのゆはわりてやうなぐ程ほどみ又またすありくうり

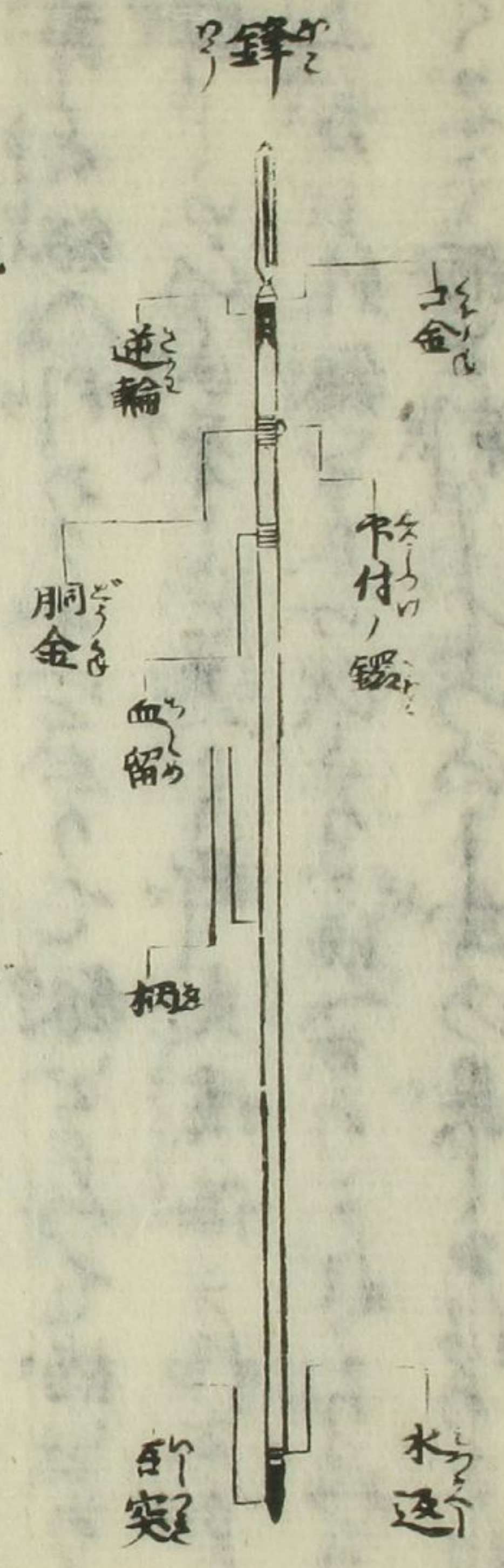


とを扱へ上右ハ牙鉄鉄搭種鎌のてん色の角
 とを扱へ上右ハ牙鉄鉄搭種鎌のてん色の角
 へんころそのら鎌鑿をつくらぬ四寸のまわりを身
 の柄子ありて矢とせ兒太刀去刀をとひり利わり序
 鎌はこぬ徳あまは両鎌いあを又利つうしやとて
 十文字を制しこれ又アド兒ゆり利きぬ
 わりあて鍵鑿とて見利をこれよりゆるに教
 林篠系茅系をこぬが物ささりて種
 とてはねおし直鑿とてと出せり右の鍵鑿は
 鑿槍あり近世鍵鑿といふ柄中に鉄とぬと曲と
 して鍵とふ「」とわりの形とぬと

よ

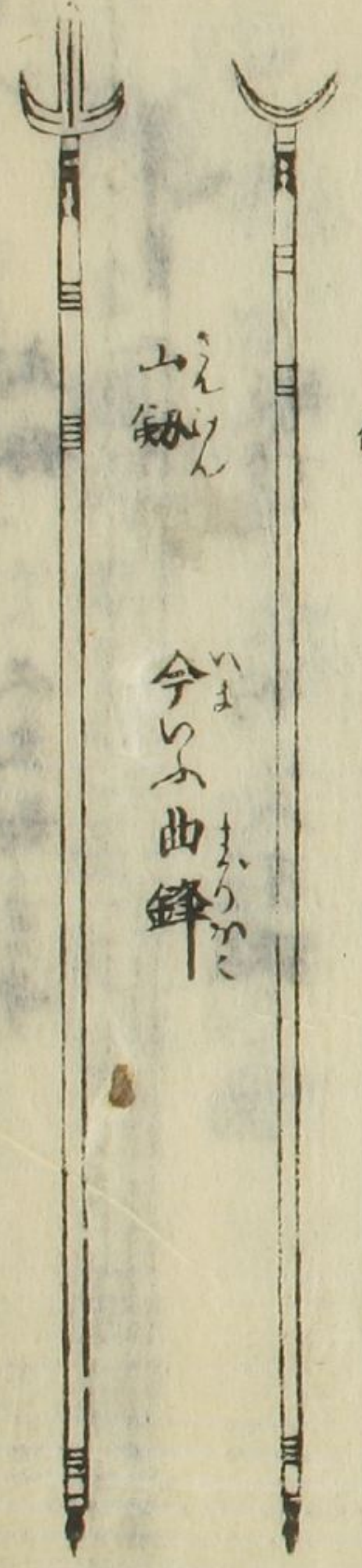
くは利あり又月夜め等のさあありん杖
 ち挿んぬに袋鑿といふ物ありん近末の杖用
 嘉吉元年赤松満祐教祐系都出奈の須之の
 在とてろぬんて近置とて寺社と飲さけぬ
 利鑿と竹のさ兒とてあやし兒とてろぬ
 節末鑿の利ありとてありて鑿とて柄をの
 鑿といひぬ芽とてかへ野夫僧侶これより
 上右ハれ鑿をりらひらうがゆかぬこれより
 く見く柄を制してつのは武の具とわたり
 け鑿を一奉といひ又一丁とてあわらふ一

とあゆりり子細あふまるとり



かゝる金具ハ一定の次大槩右乃くわうハ月釘
 田の端として月釘元の入とめくあきうにして輪も
 月釘入れおかを敷くわわり血角へ緒をたせたり
 とらられをよ滑しをよ給よりしてわらくは量
 よりえは金をもくは間ととく大刀打た太刀走た

鑿の鋒ハ去す五分あつハ七寸とるべしこれ鑿或
 者と突とれのとられはく口借あつたりとく、即ちハ
 このまゝちべし大突の鑿ハ尺寸まじは好まらば
 一柄ハ樫の本をもちらめ今横間等本とをもちり利しい
 かりていとちわらひじりの拵鑿ハ鋒とれより不突ッ
 けく二君のち五寸とるべしとれと別とらり口借とるえ



月鉾 上代鋒

山鉾

十

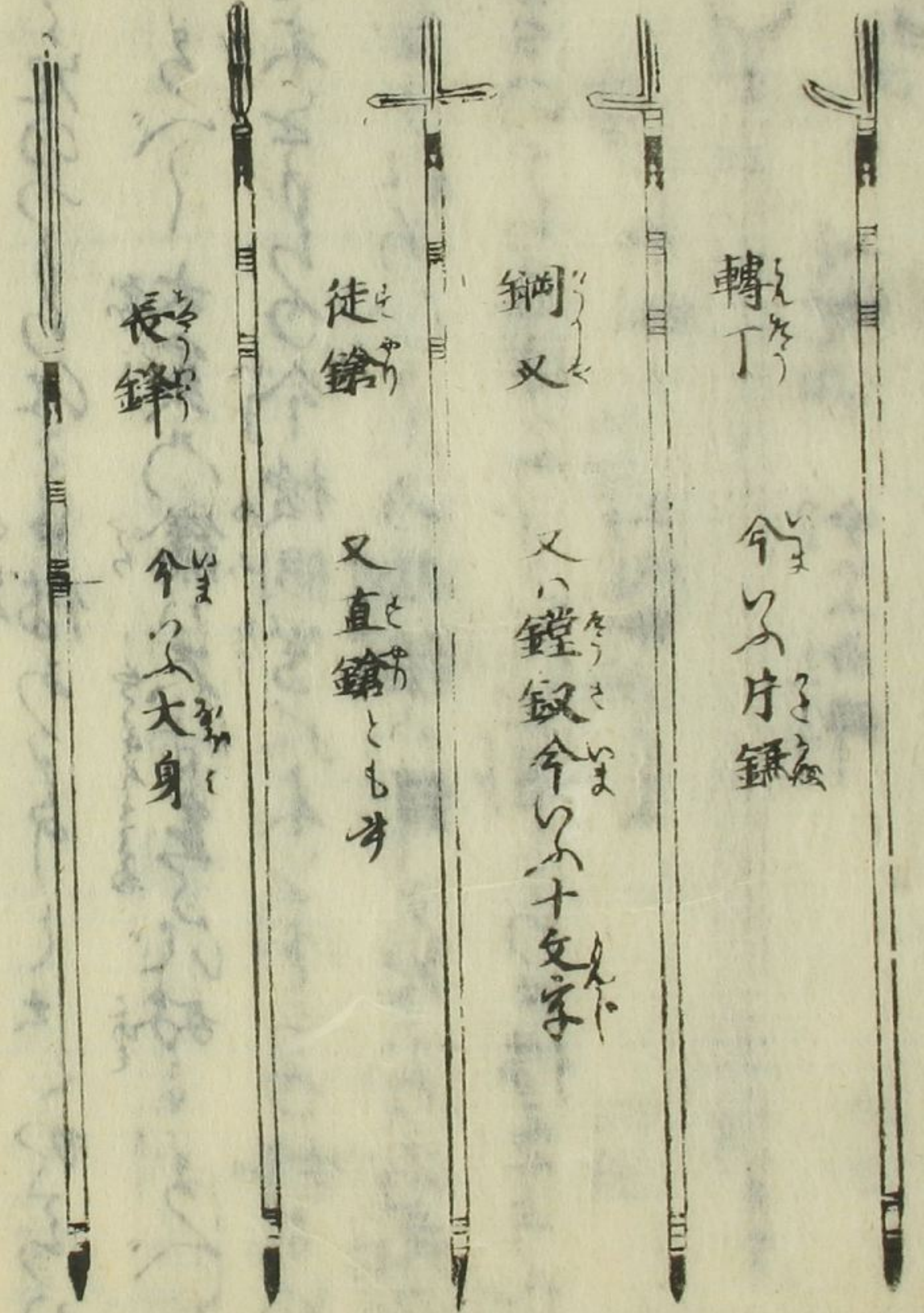
立刃 又立刃も亦

轉丁 今も片録

鋼又 又ハ鏝銀今も十字

徒録 又直録とも亦

長鋒 今も大身



乃餘の之鐵如鑢ハ家ハくろく次ハハつ録も亦
あり鑢鑢といハ又去刀にも鑢といつかり又管鑢
わり蓋一利用とて往く出来ら

管鑢 管鑢



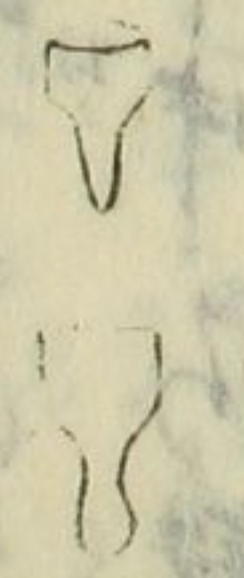
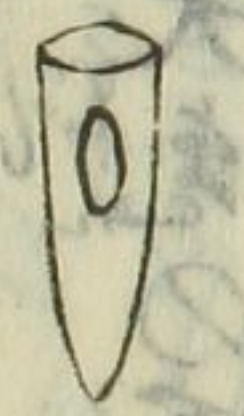
四 去刀ハ夕希 石突の圖

一 去刀ハ鑢もハ樞月刀とも肩尖刀とも種あり
と多ハ去べしあり書に奉朝紳代のいハ去刀也

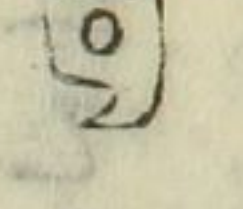
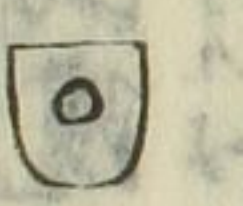
一 物とて鋒とて軍用と守候侍片刃に
 付名及之のけし太刀とてけり利とてしりし一
 説子率の太刀あり柄をりけりこれとてくふゆ子
 去刀とて年々かたかこし割と太刀のさかひありとも
 つゝ一振しりしとて又光仁天皇眞玉乃兵衛小
 撥て去刀とてけりしとてけり寶龜十年東夷征伐の
 けり去刀とてけりし軍用とてけり今の去刀とてけり
 かん又平相公清盛去刀の利とて教りし一門とて
 くれとてけりしとて去刀の名所の第子けり
 一 石突の積しとて鐙とも飛ともせし一平のりとて教りし
 けり銳のりしとて鐙ともけり石突のりしとて同立五級
 櫃等のあかりとてけりしとて利用口傳ありしとて

一平のり

鐙



鐵



圖



五

鐵炮の故けり石所とてけり

圖

一 鐵炮の鳥銃とて鳥嘴銃とてけりしとて第一般の次武備
 志子鳥銃のりしとて西番波羅多伽兒國のりしとて佛來

釋古のふ色のをとりて鐵炮をつくるあり

一わが書に鐵炮乃来由を考ふ異名はあはれ西夷の産

品より出く大明の太祖皇帝一洪武年中に本朝子

國より献上せ太祖これ器をゆめあすのち教ふるあり一

人よりこの器を神器とす又全教大將軍に寄せ

一抑日本に來ふより龜山院乃御宇文永二乙色の由

文元の老皇帝兵船七万余艘はくはくはしりあり

世菊池大伴松浦黨おひく大元の軍中より鐵炮

としありこれにたぐりてい器をとりてありと云

尾元年辛酉のち秋南蛮よりありと云と云

いふ又甲陽武田家の記に大永六年に西必の宰人

井上新左衛門といふものよりとりて甲列に鐵炮と持

とてりて信虎公に献せ扶明とありりて甲列に鐵

とて玉中に刻しありとあり又小糸家流記に永

正七年にりりりりりりりりりりりりりりりりりり

布一和泉の堺に鐵工ありとあり相列小田原に玉

滝坊法平が慶長といふ山伏あり享禄元年に和

泉の品をかじりて堺の津にこの器をとりて先て

氏頼公に献上せとありり氏康公のちこれゆきり泉

乃鐵工國毎といふものとありりとありりりりりりり

一、心果して翌年根来
和田を以て法師を招請し
即ちそこを巽の妙術せし
奇と云ふ事ありし
ら竹束と云ふもの仕り
南蛮の大船一艘隅列の
又雲船飄着して鉄炮の
さういへば利用と云ふ

鐵炮之圖

火蓋

栓

毛抜金

火血

火蓋

右の圖ハ小筒アリ大筒
去ればと臺ハ異

既熱 必反 水穀 今病 明矣 所拒 故經 又氣 故膈 也六 結則 上行 之海 登者 且非 入少 厭論 食而 即裁 極 當 為 速 不 莫 胃

一巢口の透口を直徑にもずべー玉のぬけかぶあり

桐子口しの筋のあふとひふられ丸筒をかき

一目當のえとこし矩とこしひりゆあり

と鉄頭とふくくのとくちを植格とて摺割ともいふ

されたとまへとえ又かたもあり

一筒ハ鑄笛あり捏板あり美船よりありし鑄笛筒へ

一火皿ハ口薬の皿あり横子けく金具と火蓋といふ又ハ

雨後ともいふ丸栓あり栓と管のどくちと火隠

といふものとき次あり

一火縄持の金具と火挟といふと下ハありて火挟と

幸らねありといふと毛抜金といふ

一引金といふと臺が幸下りありて盗金子通と

盗金の毛抜金とかさゆりとのありいふと人といふ業此の

とといふといふと今用金といふありと引金のえ

とといふといふありと芝摺といふ人といふ非あり

一火縄通の完とて着が幸にいと完ありは臺のころに

も又完ありとれと火縄消といふ火縄通ハ取みとあり

火のえ消ハ取といふあり

一地板といふと火幸物惣金具の着はく毛抜金ハ下が

地板ありとれと煙返といふ人ありといふ煙返を

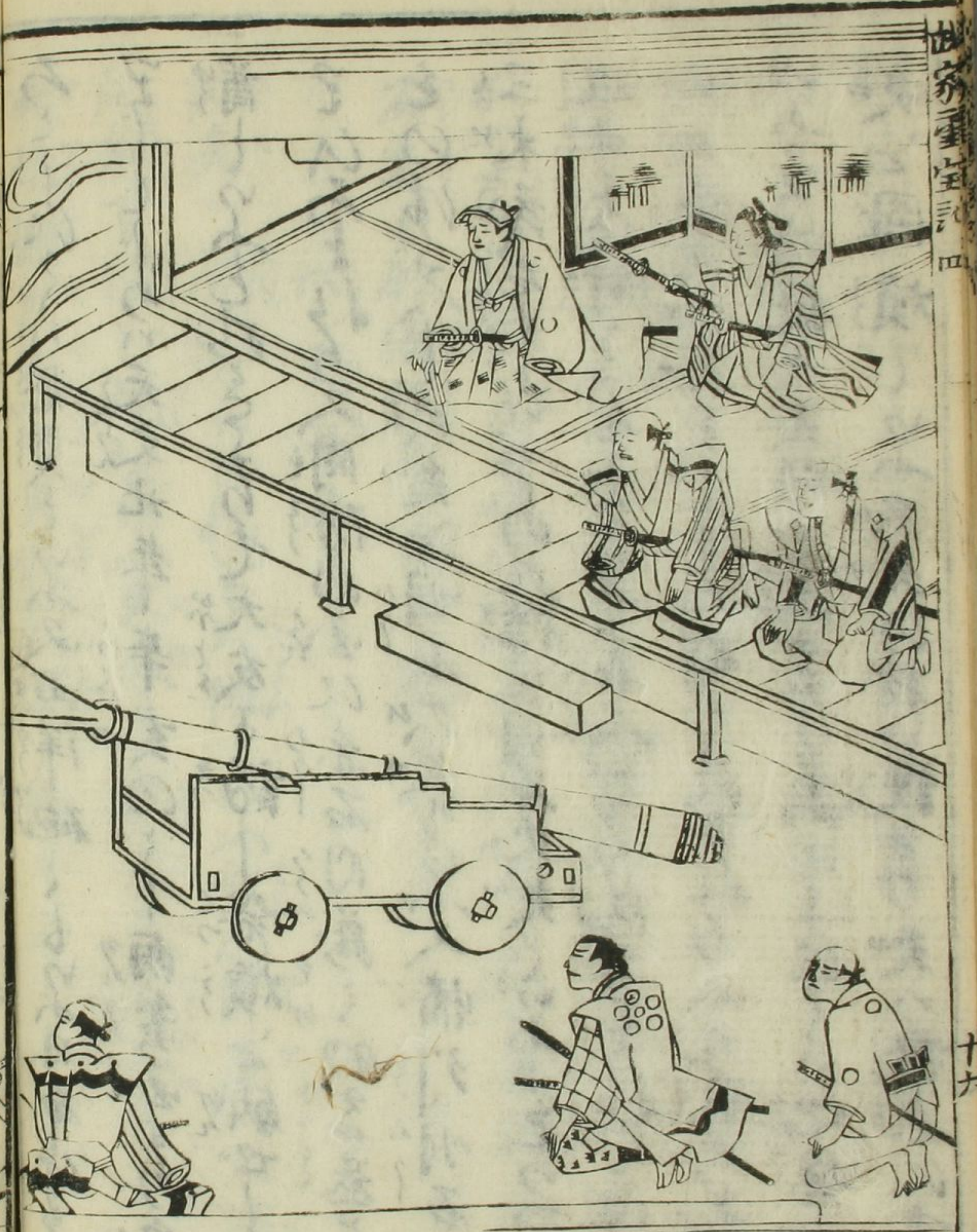
別子ありしれい火四のうへ筒のふに付しる為金をこ
一基といへ筒といへ柄しる火あり櫃の本ありしつらり
分れ熱名ありしれい火のまを記しるが記本を込
矢といふ玉葉を込のまより物かれいん又芝列といふ
不の基が卒よまの金具といふあつしん芝指又々
石突といへ柄柄ありて空を記しる

六 火矢の事

火矢ハ唐にといへれと火隊といふ敵の陣屋へ火箭
と射て櫓と燒といふ火矢の挿火矢石火矢大玉火
矢炮撓火矢等異形別名といへくわり石火矢といへ

ろといへれい発賣といふ又西洋砲といふ日本に
アといへれい天文北年辛亥のうへ南蛮といへり房
首といふもれといへりて大友子謁一發煩と敏せい
といへれい又周防のまに赤石心為といへる基とい
この法といへ火矢を明石火矢といふ又播列明石子
三木茂をまといふのれ徳を明石火矢といふといへり
近世この術といへんありて名人かやく流といへれい四海
火矢録因火矢をいへておれくといへれり又大教火矢と
いふは炮撓火矢の一名ありといへれいといへれい炮撓火
矢と圓煩といふ火矢の羽ハ鉄あり矢ハ櫓本にやこ

不 知 火 擲 炮



世 家 重 宝 記 四

十 六

くせりをつくふあり又炮撓火矢ハ炮撓子うらあせて
中へ葉をふこ見本筒子て飛せりあり

七 寄道具の事

一 寄道具といふハ仕寄清をあり寄せりて人と捕ゆ
ふの器あり鉄杖吾杖鉄搭それと上右の三道具と云
鉄杖ハ今ハ鉄棒多吾杖ハ今ハ切角棒あり又鉄
棒挾服捨れと番所の三道具といふ以上合々警
固の六具といふ

音鏝

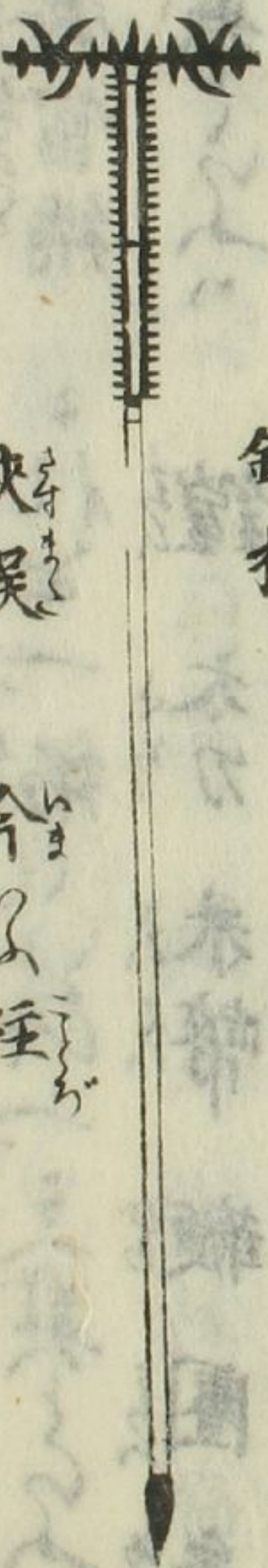


鉄鞭 今ハ鉄棒

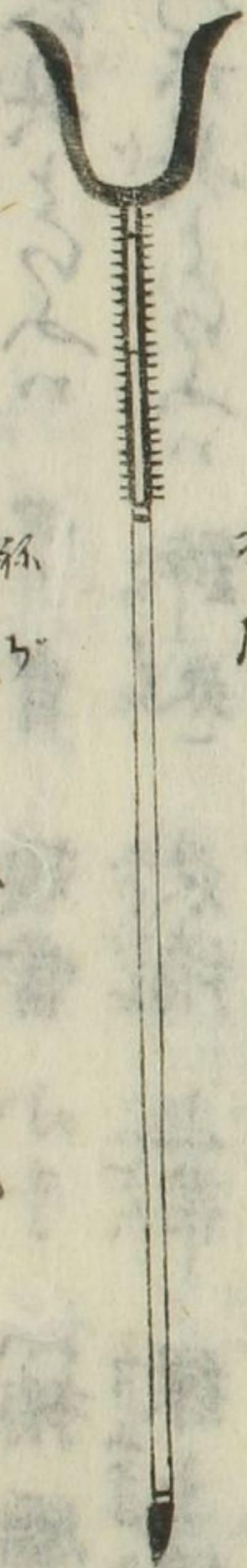
吾杖 今ハ切角棒



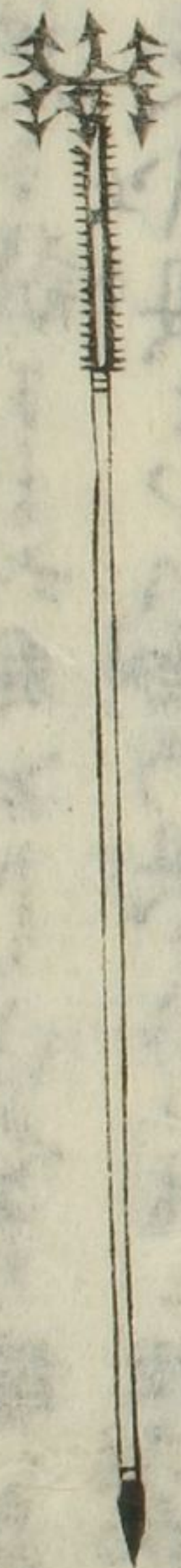
鉄棒



挾服 今ハ柱



捨止 今ハ移りせり



一 捕まぬ三道具といふハ十文 万力 鼻捏 あり

一 禁獄の三道具といふハ 枷 桔 桎 あり

八 六具の事

一六具といふ六の成数のその具の具は全備の事

ありありの事なり護りも六具とトしつゝあり鐘と具

足と稱し又或具といふ物乃具といふもさ如く是

一鎧の六具といふ 甲冑 頰當 小手 佩楯 膺當

一身堅乃六具といふ 鋒卷 忍緒 上帶 襦ト緒

扣緒 腰當緒 これと一緒といふ一又具といふ

一大おの六具といふ 鎧 太刀 朱幣 鞭 團扇

又母羅 繡 鞞 團扇 策ともいふ

備の六具といふ 幕 簾 床几 楯 螺 太鼓

一騎兵一已の六具といふ 具足 太刀 鎗 指物

箭 皮拾あり

一戦場の六具といふ 肩著 酒袋 鏝袴 端卷

弓射袖 草鞋 これを我具といふ

一兵卒の六具といふ 牙戟 利劔 弓 箭

初録 これを兵具といふ

一攻戦の六具といふ 鉄炮 竹束 旗 纏る平

大なる平ありありの鉄炮竹束との多ひは楯

蓋楯 旗 旗 太鼓 鐘とくく物具といふ

傳あり又鉄炮竹束 楯 纏る平 旗とありて

攻戦の六具とものを

一相圖乃六具とものハ 鉄炮 狼煙旗 螺松明 花

星あり又花星松明とのぞいし鐘太鼓と加らるる

一軍馬の六具とものハ 馬面 陶瓦 馬甲 鎌子 綱

鎌腰絆 鉄履あり

一番所の六具とものハ 鉄棒 挾股 捻 弄棒

竿繩 松明あり

一警固の六具の事 多ふふくしり

一要害の六具とものハ 乱杖 鹿砦 菱 勢標

作束 我扇洞あり

丸腰物鎗長刀 精名さす 務方

刀とさすんハ刀と存手持てと兒と立てたのよとつと

を越と云てたぬよはさ下結と云てけとと柄子

うらふ下に云ててけとあり

一銀指とさすす下結とさるる柄と云て(か)て後

一ハ一付結をさす一紙とさるるさるりてり一ぬふ柄

にふさうのぬさうにさくふぬ一

一人の腰物と名物さうさうらとさるる時ハ柄子と

そぬとらんとさすさくぬさるてた本とさしぬと

るぬ一ハ一甲と名てさるるの人手とハ入い字

